

大震災・復興ニュース（第16報）

平成23年8月5日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 水産業復旧・復興に向けた対応状況（国及び県全体の動き）

宮城県内の水産物の放射性物質測定結果について

宮城県内で採取した水産物について、下記のとおり東北大学の協力を得て放射性物質の測定をしたので、その結果をお知らせします。

- 1 測定年月日 平成23年7月29日～8月2日
- 2 測定分析機関 東北大学（東北大学への協力依頼による）
- 3 測定結果 国が定めた暫定規制値を下回り、安全性に問題がないことが確認された。

放射性物質の値は採取日における値を示す。

水産物（採取日 平成23年7月26日～8月1日）（単位：ベクレル/kg）

種別	採取場所	放射性ヨウ素	放射性セシウム
カタクチイワシ	仙台湾	不検出	4
マアナゴ	仙台湾	不検出	不検出
ギンザケ	金華山沖	不検出	6
マアナゴ	大須沖	不検出	2

食品衛生法の規定に基づく食品中の放射性ヨウ素の暫定規制値 2,000 ベクレル/kg

食品衛生法の規定に基づく食品中の放射性セシウムの暫定規制値 500 ベクレル/kg

2 管内の復興に向けた動き

<水産漁港部からのお知らせ>

管理漁港及び漁場の啓開(けいかい)作業状況

- ・ 県管理漁港の航路・泊地内の漁具や沈没した船舶・自動車等支障物の撤去作業はすべて作業終了。
- ・ 漁場の啓開作業は、5月23日から松島湾より着手し、潮位の関係から七ヶ浜沖と並行して2台の起重機船で撤去作業を行っており、松島湾漁場については、撤去後の確認作業を残して8月4日で概ねの撤去作業は終了。

また、仙台湾漁場では、6月28日から支障物撤去作業を行っているが、8月5日からは起重機船2台での作業を行っている。

水陸両用バックホウについては、7月25日から鳥の海での撤去作業を行っていたが、8月5日で完了の予定。

漁港の応急復旧状況

- ・ 荒浜漁港の海岸堤防の応急工事については、阿武隈川河口から南側約900m区間の1次応急工事作業は完了しているが、南側から工事用道路を650m、海側へ並行する仮堤防を400m（高さ4m）施工した。引き続き本格的な台風シーズン前の完成を目指し作業中である。

- ・荒浜漁港南導流堤基部の決壊箇所の閉塞工事については、現在、吉田排水機場から北側に仮設道路工事を施工中で全体約500m区間を施工中であるが、土のう（1tパック）積が2段まで終了し、工事用道路の嵩上げを施工している。



仮堤防盛土状況



仮設道路土のう積み状況

災害査定の実施状況

- ・二次査定については8月8日から8月11日まで4日間の予定です。
- ・申請箇所は、塩釜漁港で10箇所、桂島漁港で8箇所、計18箇所の予定です。

<トピックス>

荒浜漁港で震災後初競り

7月29日（金）に亘理町荒浜漁港において、刺し網船2隻、定置網船1隻によりスズキ、カレイ、マダイ、ヒラメなど約500kgが水揚げされた。

今回震災後初めての競りが行われ、地元6社の仲買人が参加し、通常の2割ほど高値で競り落とされた。



荒浜の初競り（河北新報記事より抜粋）

災害復旧応援職員の紹介

漁港の災害復旧の応援のため兵庫県から長谷川稔課長補佐が当部に参りました。

「兵庫県の淡路農林水産振興事務所から災害支援に来ました長谷川です。メディアを通して東北地方太平洋沖地震による自信、津波の被害状況は知っていましたが、実際に現地にて被災状況を見ると、その被害の大きさに驚くばかりです。しかし、人々の生活の中に復興への大きなエネルギーを感じました。一日でも早く蘇る日が来るように、短い期間ですが精一杯頑張りたいと思います。」



長谷川稔さん